

## 第 学年道徳学習指導案

日 時: 年 月 日 ( ) 第 校時  
 場 所:  
 対 象: 第 学年 組 名 (児童 名)  
 指 導 者:

## 1 主題名 多様な性

以下実態にあわせて使用する。

-(指導内容2-11 相互理解, 寛容)

-(指導内容3-13 公正, 公平, 社会正義)

## 2 資料名

(1) 児童用ワークシート兼アンケート(認定特定非営利活動法人ReBit,2018)

(2) DVD「いろいろな性ってなんだろう?」(認定特定非営利活動法人ReBit,2018)

(3) 補助資料「いろいろな性ってなんだろう?」(認定特定非営利活動法人ReBit,2018)

## 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

法務省の「主な人権課題」には、「性的指向」「性同一性障害」が明記されており、セクシュアルマイノリティは我が国の人権課題の一つと認識されている。したがって本単元では、人権教育の一環として多様な性をテーマとする。

平成24(2012)年、厚生労働省が「自殺総合対策大綱」でセクシュアルマイノリティの自殺リスクについて言及し、「無理解や偏見等がその背景にある社会的要因の一つ」として「教職員の理解を促進する」と明言した。平成27(2015)年には文部科学省が「性同一性障害等に係るきめ細やかな対応の実施等について」と題する通知を発行し、学校での具体的な取り組みが要請された。

セクシュアルマイノリティが自分のセクシュアリティ(性のあり方)を自覚するのは、小学生から高校生までの学齢期が多いとされている。

まず性同一性障害の人が「性別違和感を自覚し始めた時期」は小学校入学前までが56.6%、小学校低学年が13.5%、小学校高学年が9.9%と、実に80%が小学生のうちから対応を必要としている(※1)。また、自殺念慮を持ったことがある性同一性障害の人は58.6%で、そのうち小学生の時期に自殺念慮が強かったという人が13.9%いる(※1)。こうした背景から、「性別違和感を持つ子どもに対しては、二次性徴が始まる小学校高学年までに性同一性障害について説明するのが望ましい」(※2)とされている。さらに、小学生から高校生の間に「LGBTをネタとした冗談やからかいを見聞きした経験」のあるLGBTは84%、自身が「いじめや暴力を受けた経験」があるLGBTは68%にのぼる(※3)。いじめや暴力を受けたことがあるLGBTには、小学校低学年から被害に遭っている人も多く、72%が複数学年にわたりいじめを受けている(※4)。この事実から、前述の「教職員の理解」のみならず、身近な同級生らの理解も不可欠といえる。

このように、セクシュアルマイノリティのメンタルヘルスの低下や周囲の無理解を考慮すると、早期に多様な性に関する正しい知識や肯定的なメッセージを教育現場で発信していく必要があるといえる。多様な性について学ぶことは、セクシュアルマイノリティの生徒にとって自己理解を深め、自己の性のあり方によって自己嫌悪したり自尊心が低下したりすることを防止すると考えられる。また、多様な性について学ぶことで、一人ひとりが持つ個性に気づき、自己と他者の「ちがひ」について認識し、互いを尊重する寛容の態度を育むことができると考えられる。さらに、セクシュアルマイノリティに対する社会の偏見

や差別をなくすためにも、多様な性についての教育が果たす役割は大きいと考えられる。

現に、2018年3月に教科書検定に合格した中学校道徳の教科書では、8社中4社がLGBTなど性的少数者について取り上げている(※5)。小学生向けの書籍も多数出版されている。

以上のことから、互いが互いを尊重する姿勢について多様な性を切り口として学習することを通して指導内容2-11、3-13の実現を図るため、このような単元設定とする。

(2) 生徒の実態について

(実態にあわせて記入する。)

(3) 資料について

教員5,979名を対象にしたセクシュアルマイノリティに関する意識調査によれば、教育の現場で同性愛について教える必要があると答えた先生は62.8%、性同一性障害について教える必要があると答えた先生は73%にのぼったが、HIV/AIDSについて教える必要がある94.3%に比して20-30ポイントダウンであった。また、実際にLGBTについて授業に取り入れた経験がある先生は13.7%である。授業で取り上げない理由として、同性愛や性同一性障害についてよく知らない(26.1%)、教科書に書かれていない(19.1%)、教えたいと思うが教えるのが難しい(19.1%)などの回答が見られた(※6)。

本資料は、セクシュアルマイノリティについて1コマで学習することを想定して制作しており、映像資料によってセクシュアルマイノリティに関する基礎知識およびセクシュアルマイノリティの声に触れることができる。また、付属のワークシートおよび補助資料で考えを深め、自分の意見を持つこともできる。これは、特別の教科となった後の「考え、議論する道徳」にも通ずるものである。なお、付属の「指導の手引き」を活用することにより、本時を導入とした複数時間の授業や教科横断的な展開も想定できる。

(※1) 中塚幹也. 封じ込められた子ども、その心を聴く:性同一性障害の生徒に向き合う. 2017, p.49-ふくろう出版.

(※2) 中塚幹也. 封じ込められた子ども、その心を聴く:性同一性障害の生徒に向き合う. 2017, p.92-ふくろう出版.

(※3) いのちリスペクト. ホワイトリボン・キャンペーン. LGBTの学校生活に関する実態調査(2013)結果報告書. 平成 25 年度東京都地域自殺対策緊急強化補助事業. 2013, pp.8-9.

(※4) いのちリスペクト. ホワイトリボン・キャンペーン. LGBTの学校生活に関する実態調査(2013)結果報告書. 平成 25 年度東京都地域自殺対策緊急強化補助事業. 2013, pp.15-16.

(※5) 土居新平. 「性的少数者」道徳教科書で初の掲載:8社中4社で. 2018年3月27日, 朝日新聞.

(※6) 日高庸晴(宝塚大学看護学部 教授). 厚生労働省エイズ対策研究事業 子どもを“人生を変える”先生の言葉があります. 教員5,979人のLGBT意識調査レポート. 2015. <http://health-issue.jp/f/>

## 4 指導区分

(実態にあわせて記入する。)

## 5 本時のねらい

(以下実態にあわせて使用する。)

- 多様な性について学ぶことを通して、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重しようとする道徳的心情を育てる。
- 多様な性について学ぶことを通して、誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めようとする道徳的心情を育てる。

6 本時の展開

|               | 学習活動                                | 主な発問と予想される生徒の反応   | 指導上の留意点   |
|---------------|-------------------------------------|---|---|
| 事前アンケート<br>5分 | 資料(1)を配付する<br>資料(1)の<授業前アンケート>に回答する |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>資料(1)の&lt;授業前アンケート&gt;に回答する。</li> <li>記入後、回収せずに児童が手元で保管する。以降、授業前アンケートの書き直しをしないよう声かけをする。</li> </ul>   |
| 導入<br>5分      | 資料(1)の<ワークシート①>をみる                  | <p>◎このイラストの性別はなんだと思いますか？</p> <p>・「サッカーしているから男」「リボンつけているから女」など、男性らしさ女性らしさを起点とした発言</p> <p>◎男・女といったけれど、性別は本当に2つだけなのでしょうか？今日はいろいろな性について学習します。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>導入の内容は実態にあわせて工夫する。その際、アイディアは「指導の手引き」を参照してもよい。</li> </ul>   |
| 展開(1)<br>15分  | 資料(2)を視聴する                          | ◎では映像をみてみましょう。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>セクシュアルマイノリティにかんする揶揄等があった場合の対応は、「指導の手引き」を参照する。</li> <li>「ちがいを大事にするための工夫」の前で一時停止してワークシート②の(1)に、その後最後まで視聴してからワークシート②の(2)に取り組みせてもよい。</li> </ul>  |
| 展開(2)<br>10分  | 資料(1)の<ワークシート②>を記入する                | ◎「ちがいを大事にするための工夫」は、映像の中にあった意見を参考にしてもよい。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表、話し合い等をする場合はワークシート②の(2)のみとするとよい</li> <li>記入した内容を発言させてもよいが、強要はしない。</li> <li>グループワーク、話し合い活動等を取り入れる場合は、児童からの突然のカミングアウト、揶揄等によって意図せず傷ついたり傷つけたりすることがないように注意をはらう。</li> <li>セクシュアルマイノリティにかんする揶揄等があった場合の対応は、「指導の手引き」を参照する。</li> </ul> |

|               |   |  |  |
|---------------|---|--|--|
| 終末<br>5分      | 一人ひとりのちがいを尊重することの大切さを伝える。<br><br>資料(3)を配付する | <p>◎今日は、いろいろな性からいろいろなちがいについて考えました。</p> <p>◎映像の中でもアライグマ先生がいていたように、みんながそれぞれ人とちがうところを持っているということは、誰かだけがちがうのではなく、みんな一人ひとりがちがうということですね。</p> <p>◎だから友達同士でも、対話をして、相手のことをちゃんと知るのが大事ですね。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人ひとりが、個々の「ちがい」をどう受け入れるか、今後も考え続けるようながす。</li> <li>いろいろな性から多様性に広げる。</li> <li>今日からできることを確認する。</li> </ul> |
| 事後アンケート<br>5分 | 資料(1)の<授業後アンケート>に回答する                       |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>資料(1)の&lt;授業後アンケート&gt;に回答する。</li> <li>記入内容が他の児童に見えないように留意して回収する。</li> </ul>                             |

7 本時の評価  
(以下実態にあわせて使用する。)

- 多様な性について学ぶことを通して、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重しようとする道徳的心情を育てることができたかを、発言、態度、ワークシートの内容などを総合して評価する。
- 多様な性について学ぶことを通して、誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めようとする道徳的心情を育てることができたかを、発言、態度、ワークシートの内容などを総合して評価する。

\* 指導案は一例です。教科・内容は実態にあわせて変更してください。  
\* 事前・事後アンケートを授業時間外にすることで、展開(2)の活動時間を延長することも可能です。その場合には前後の休憩時間・朝夕の学活の時間などでアンケートの実施時間を確保してください。